

第18回鳴門市姉妹都市親善使節団に参加して

第18回使節団副団長・鳴門市議会前議長 橋本国勝

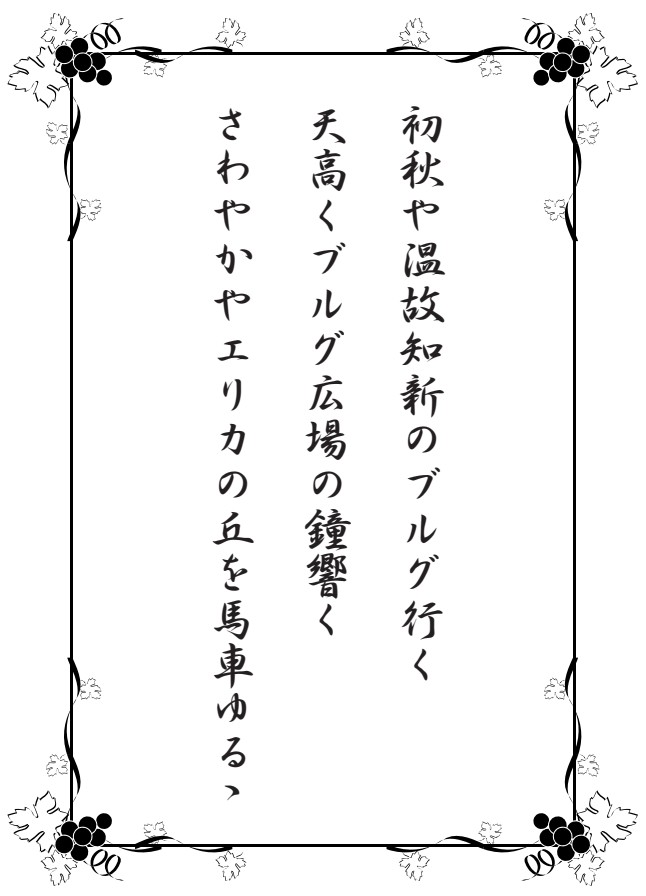
ドイツ・リューネブルク市との姉妹都市締結35周年を記念して、副団長の立場で初めてリューネブルク市を訪問した。今回はドイツ国内の都市に限定し、文化・芸術・歴史をはじめ、環境や市民の生活状況等を見聞することによってドイツという国を理解することに主眼をおいた。

リューネブルク市では、35周年を記念して作られた鳴門市までの距離8,917kmを示す標識の除幕式への出席をはじめ、市民との交流バスツアー、ホームビジットなど、市民の手厚い歓迎を受けた。そしてこれまで35年間の先人の交流に対するリューネブルク市の関係者の厚い思い、意気込みをひしひしと感じることができた。

また、今回の訪問では故吉田前市長が生前に企画の目玉としていたベルリンの在ドイツ日本国大使館の招待を受けることができたのは好運であった。これは、自治体や民間レベルの国際交流を大使館が支援する目的で外務省により計画されたものであり、ドイツ大使館では初めての試みであるとのこと。これも神余ドイツ大使が来徳時に吉田前市長の心ある対応に感銘を受けて申し出ていただいたものであり、改めて故吉田前市長のご人徳をひしひしと感じた次第である。

大使館訪問時にはニーダーザクセン州やリューネブルク市の関係者、民間企業・独日協会の関係者も出席された。パーティーには鳴門市が持参した「なると金時」やレンコンなどの料理が出され、会場には塩、若布、大谷焼などの名産品、鳴門の名所、旧跡などの写真が展示され鳴門のPRに大きく貢献した。また団員による日本舞踊や日本民謡の合唱など、ドイツ市民との交流に努めることができたのは大きな成果である。

訪問中に吉田前市長の死去という悲しい知らせを受けたが、吉田前市長の国際交流にける強い思いに報いるため、今後もこの国際交流の輪をさらに大きく広げ、友情を深めなければならないと痛感する旅となった。



大使館でのレセプションにて神余大使らと